



# 森林官からの手紙



## 海と山とに恵まれて

庄内森林管理署 首席森林官(遊佐担当区) 五十嵐 伸哉

岩石の中には、何かが刻まれているものも見受けられますが、昔のお墓ではありません。



写真1

遊佐町などの森林には、その昔鳥海山から噴出した溶岩が固まってできた岩石が、あちこちにゴロゴロしています(写真1)。

皆さんこんにちは。私はこの4月より、北は鳥海山の山頂付近から南は庄内空港付近まで、約2万ヘクタールの国有林を管理する遊佐森林事務所勤務しています。 上席・首席森林官として3箇所目の任地ですが、当所はこれまでに比べ事業の種類と量が格段に多いところです。新任の担当区主任(森林官の前身)の頃の初心を思い起こして、丁寧に着実にをモットーに、一般職員1名、行政専門員3名とともに業務を遂行しています。

さて、国有林の現場に向くと興味深いものに次々と出くわします。そのうちのいくつかをご紹介します。

このように、当所管内には山地だけでなく海岸林もあり、それぞれ豊かな自然に囲まれた日々の業務は変化に富み、やりがい

種になりそうです。 今度は海岸へ。日向川の河口に立っている私が指を差している水面は、紛れもない「国有林」です(写真3)。木や草が生えているところだけが国有林ではないのです。砂丘や崖地の他、道路やダム、写真にある護岸などに姿を変えた国有林も沢山ありますが、海と見まごう水面が国有林とは話

せん。 これは、国有林と隣接する土地との境界を表す境界標識の一つで、移動するおそれのない岩石に国有林を示すマーク「山」と境界点番号「312」を刻んだものです(写真2)。通常、境界標識には、石柱やコンクリート柱を用いますが、このような天然岩石標もあり。数が少なく、山奥にあるため、これを目にする機会は減多にありません。



写真2



写真3

を感じている毎日です。 もちろん、好ましくない話題もあります。クロマツ等の松くい虫被害は毎年発生し、調査・駆除に相当な手間と時間を費やしています。また、ナラ枯れも終息していません。それでも、国民の財産である大切な国有林を適正に管理し、後世に伝えるため、微力ながら精一杯努力しています。 幾つもの森林事務所を経験してきた私がこの頃思うのは、広大な国有林を直接管理し、樹木を育成し、国土や地域のために奉仕できる森林官のような職務は、迎りを見回してもなかなかないのではないかといいことです。たくさんの人々と関わり、関係する法規に接する機会も多く、多種多様な業務を経験できます。 遊佐森林事務所の現状と、森林官の職務について少しでもお伝えできたとすれば幸いです。

せん。 これは、国有林と隣接する土地との境界を表す境界標識の一つで、移動するおそれのない岩石に国有林を示すマーク「山」と境界点番号「312」を刻んだものです(写真2)。通常、境界標識には、石柱やコンクリート柱を用いますが、このような天然岩石標もあり。数が少なく、山奥にあるため、これを目にする機会は減多にありません。